■林述斎　　儒学者。幕府の教学刷新，昌平黌を誕生させるなど，官学の権威を回復した"林家中興の大儒"。
はやしじゅっさい
久留米藩工事1768＝　江戸鍛冶橋の岩村藩邸で，美濃国岩村城主松平能登守乗蘊の第三子に生まれる。諱は衡。

上の2人が若死にしたので，述斎が家を嗣ぐべきであったが，体が弱かったので，福知山侯の2子乗保を養嗣子とし，述斎は家にいた。

田沼意次老中1772＝ 4歳：

・・・・・・1777＝ 9歳：この頃から，体は丈夫になった。

もともと文を好み書物が好きな子供だったので，父が招いた大塩竃諸や服部仲山から学ぶ。

田沼意次失脚1786＝18歳：この頃になると，和漢古今の典籍に通暁するようになった。佐藤一斎は述斎より4歳若かったが，父が岩村藩に勤めていたので，小さい頃から幼友達としてその側にいた。長ずるに従って学問友達として共に書を読んだ。述斎は，今まで漢唐の学を学んできたが，訓詁は細かな学問で煩わしい，自分は宋学を勉強して一家言を立てようと考えた。そこで朱子八書訓を参考にして，また斉魯韓3家の詩説を折衷して，「詩孜補」を作り，別に「経義叢説」を編著した。この時述斎は英気勃々として容易に人に頭を下げない気概を持っていたが，渋井大室に会って心服し，これに師事した。

松平定信引退1793＝25歳：**＊林大学頭錦峰が没して嗣がなかったため，幕府の命でその跡を継ぎ，千五百石。寛政の三博士とともに，松平定信の幕府の教学再編成の一端を担う。**
写楽・・・・1795＝27歳：

昌平黌始・・1797＝29歳：**_上言が効を奏して，学制改革が成され，林家の私学だった聖堂学舎を幕府の学問所とし，**

蝦夷地直轄始1799＝31歳：編「佚存叢書」，刊行始まる。**＊昌平坂の地に，新たに学校を建て，昌平黌が誕生。**

ﾚｻﾞﾉﾌ来航・ 1804＝36歳：柴野栗山とともに，ロシア使節対策を幕府に献ずる。

ﾛｼｱ船狼藉・ 1807＝39歳：外国船に薪水供給することを献策する。

・・・・・・1810＝42歳：**_幕府編纂「新編武蔵風土記」の総裁として，稿を起こす。**
ｺﾞﾛﾌﾞﾆﾝ拿捕 1811＝43歳：**＊朝鮮信使と対馬で会見した。今まで江戸まで招いていたのだが，費用がかかるということでこうしたが，その時の細かな会見儀礼等すべて述斎の考えによって定められた。**
浮世床・・・1813＝45歳：

水野忠成老中1818＝50歳：

英船浦賀来航1822＝54歳：3千5百石となる。

ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝60歳：**_「新編武蔵風土記」が脱稿し，**

富籤流行・・1830＝62歳：**_幕府に上程。**
富嶽三十六景1831＝63歳：

大塩平八郎乱1837＝69歳：
適塾ｵｰﾌﾟﾝ・ 1838＝70歳：**＊聖堂・学問所御用を辞し，大内記と改名して，**

勧進帳初演・1840＝72歳：
天保改革始・1841＝73歳：**_没した。**
このほか「寛政重修諸家譜」「徳川実紀」「朝野旧聞裒稿」等官撰編集諸書の纂述も多数した。「趨庭所聞」「谷野百絶」「蕉窓文草」「蕉窓永言」「述斎偶筆」が刊行されている。

「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，